

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	放課後デイサービス ここいろ		
○保護者評価実施期間	2026年 5月 19日		～ 2026年 6月 12日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	24名	(回答者数) 18名
○従業者評価実施期間	2026年 5月 29日		～ 2026年 6月 5日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	4名	(回答者数) 4名
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 6月 16日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	・限られたスペースの中でできる運動プログラムを提供するようになっている	・同じメニューでも子どもの特性に応じて少し変更をいれたりしながら参加しやすい環境を作っている ・ラジオ体操やボール運動など様々な運動を行ないながら、身体の動かし方を身につけていけるようになっている ・自分で目標を決めることで、達成する喜びを感じてもらえるようになっている	・ミニゲームなどをメニューに入れながら、ルールを理解する、子ども同士の関わりを増やしていく ・保護者からの要望があれば個別に対応するなどしていく
2	・子どもの特性に応じた専門性のある支援を心がけている	・学校や家庭からの引き継ぎをや子どもの要望も聞きながら、日々の活動プログラム、外出活動を定めるようになっている ・個別の運動プログラムを提供したりするなど、子どもが活動に参加しやすい環境を作っている	・引き続き保護者や学校との連携を取りながら、日々の活動を組むようになっている ・その日の体調を見ながら臨機応変にプログラムの変更をするようになっている
3	・保護者や学校など、関係機関からの信頼を得ている	・お迎え時に先生との情報交換と共有する時間を作るようにし、必要な場合は職員間で共有するようになっている	・学校や関係機関との連携をさらに取れるように、職員間で困りごとを共有し先生や相談支援員の方に相談する機会を作るようになっている

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	・事故防止、非常災害への対策、緊急時対応などの計画と訓練について	・子どもの特性によっては、非常時にどのような反応が出るかの予測が難しい ・非常災害時、帰宅が困難になった場合の対応をどうするか、てんかん薬を服用している児童が多いため、もしもの時の対応を検討する必要がある	・子どもの反応を予測した避難訓練を計画し実施していく ・緊急時、事故防止など、予想される事案に関しての計画を年間行事として組み込んでいく
2	・個々の子どもに対しての対応の仕方(特性、疾患、環境の配慮)	・てんかん発作や急な不穏による他害行動など、専門的な知識やその場に応じた対応が必要になることが多い ・身体が大きくなり力も強くなってきているので、それぞれのスペースが必要	・疾患についての知識、発作が起きた際の対処の仕方など、その日の体調を見ながら予測しながら支援できるようにしていく ・子どもの情報を共有し環境の配慮など、臨機応変に対応できるようにしていく(送迎車、外出活動内容など)
3	・子どもの興味、余暇活動を広げる取り組みについて	・興味や関心事が少ない子どもに対して活動プログラムに工夫が求められる ・発語のない子どもやコミュニケーションがうまく取れない子どもに対しての対応にばらつきがある	・学校や保護者との会話の中で、興味や関心事に繋がりそうな話題を聞きとり支援に繋げる ・子どもの反応や行動を見ながら取り組みを行なう ・絵カードやアプリ等のツール、タブレットをうまく使用しながらコミュニケーションを図るようになっている(学校で使用しているツールなどを検討する)

事業所名 放課後等デイサービス こころ

公表日 2026年6月26日

回収数

18

	チェック項目					ご意見	ご意見を踏まえた対応
		はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない		
環境・ 体制 整備	1 子どもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	15	3			ワンフロアで死角がなくいいと思います	必要ない物は撤去、活動に合わせて移動していく 事故の起こらないよう配置にも気を配る
	2 職員の配置数は適切であると思いますか。	17			1		現在の状態を引継ぎ継続していく為に も、余裕を持ったスタッフの確保に努めます。
	3 生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	18					
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、こども達の活動に合わせた空間になっていると思いますか。	18					感染症などに注意し清掃、消毒を行ない、利用者様に安心して利用して頂けるよう努めて参ります
適切な 支援の 提供	5 こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	18				とても理解していただいています	五領域を踏まえた分析を心掛け、ケース会議などで現場のスタッフとの情報を密に交換し話し合いを持ち支援をします。
	6 事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	17			1	毎日体操を取り入れていただいています	支援プログラムは職員が確認できるようにし、計画通りの支援ができるようにします。
	7 こどものことを十分に理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、放課後等デイサービス計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	18					面談、モニタリング、職員とのケース会議で子供たちを理解し、計画書を作成します
	8 放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	18					五領域をふまえて子どもたちの様子を観察し、引き続き必要な項目、具体的な支援内容の記載を行なってまいります
	9 放課後等デイサービス計画に沿った支援が行われていると思いますか。	18					職員が計画書を確認できるようにし、引き続き計画に沿った支援ができるようにしていきます
	10 事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	16	1		1	休日にはクッキングやお出かけと工夫をしています	情報の収集、職員間での話し合いをもち、事業所ごとの特色を生かした活動プログラムを提供できるようにします
	11 放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会がありますか。	3	4	3	8		地域の子どもとの交流は行なっていません
保護者 への 説明 等	12 事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	18					デイでの活動様子や体調など、送迎時や電話での説明を行なっています。
	13 「放課後等デイサービス計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	18				送迎時や連絡帳、LINEで報告しあっています	ご様子など半年に一度の面談で丁寧に説明しております
	14 事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	5	7	1	5		依頼があれば対応していきます
	15 日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達の状況について共通理解ができていると思いますか。	18					保護者とは密に連絡をとり、話しやすい印象を持っていただけるよう努めております
	16 定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	17	1				日頃から保護者様とコミュニケーションを取り、相談などがあれば丁寧な対応を心掛けております
	17 事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	18					
	18 父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	9	2		7	希望しません	
	19 こどもや家族からの相談や申し入れについて、対応の体制が整備されているとともに、こどもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申し入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	16			2		
	20 こどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	18					子どもとの意思の疎通には個々に丁寧に 対応し、保護者からの相談等も丁寧に 対応を心がけております。
21 定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果をこどもや保護者に対して発信されていますか。	18					定期的に発信はありませんが、何かあればLINEで連絡するようにしています。	

	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	18					十分に注意し取り扱っております。シュレツダ-の活用や写真や動画の取り扱い方法などは徹底しています。
非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	13	1		4		マニュアルを作成し周知しております。地域の防災マップを活用し情報共有しています
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	9			9		定期的に訓練を行っています
	25	事業所より、こどもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	15			3		子どもの安全は当然第一に考え避難場所を想定し、訓練を行いません
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	18					
満足度	27	こどもは安心感をもって通所していますか。	18				大好きな場所です	
	28	こどもは通所を楽しみにしていますか。	18				毎日楽しみに通っています	
	29	事業所の支援に満足していますか。	18				いつもありがとうございます	

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		公表日				
放課後デイサービス こころ		2026 年 6 月 26 日				
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	3	1	限られたスペースの為、スペース確保に努めています。	高校生が増え身体も大きくなってきており、手狭になってきた。スペースの活用方法を検討する
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	4		働きやすい職場にするように努め、人材確保を行なっています。	余裕を持って支援できるようスタッフの人材確保をしていく。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	4		活動しやすい動線になるように工夫している。	子どもの成長に応じて用具の置き場などを臨機応変に変更していく。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	4			
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	3	1	2階の事務所と階段下にカーテンを付けて部屋を分けるようにしている。	子ども同士の関係を見て場所を離す等の工夫しているが、不穏、パニック対策としてクールダウンの場所をどうするか。
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	3	1	利用者別の日報に個別支援計画を添付、誰も見られるようにし、スタッフ間で一日を振り返りチェックをしている。	スタッフ全員が情報を共有できるように、意見交換の場を設けることが必要である
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	3	1	日々の送迎や面談時に、ご意見ご要望の聞き取りを行ない、可能な範囲で支援や業務に反映させている。	評価表の結果を受け止め、業務改善に繋げていく。
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	2	2	支援前や送迎後など、その都度出た質問や意見を受け止め、改善に繋げるようにしている。	子どもの特性や思春期についての理解や支援の方法についてその都度話し合い、統一した支援ができるようにしていく
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		4	業務改善に関して質問などが出た場合は、専門家に相談の上、解決している。	業務改善については、定期的に話し合いをしていく。
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	1	3		外部機関の研修、動画での研修など、日程を事前に決めて行なえるようにしていく
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	4		支援方針に基づきながら、利用者に沿った内容を検討、作成、実施していることを公表している。	利用者の様子を見ながら、随時更新しながら実施していくことが課題。
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	4		評価表、面談や送迎時の会話、日頃の子どもの生活などから情報を参考にし、それぞれに合った計画を立てている。	アセスメントや保護者の要望を職員間で共有しながら、個別支援計画の理解と支援の実施を統一していく。
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	3	1	職員間でモニタリング、会議をして共通理解を図っている。子どもの理解のために様々な視点での意見交換をしている。	高校生が増えているので、将来に向けての自立等を含め、個別支援計画に反映させていく
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	4		子どもの特性や支援内容をどの職員も理解できるように、個別支援計画に沿って情報共有している。	子どもの特性を理解し、個別支援計画内の留意すべき点を具体化できるように意見交換していく。
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	2	2	5領域を踏まえた内容の記録を心掛けながら、随時意見交換を行なうようにしている。	職員間により内容のバラつきがあるため、書き方などの統一が必要な場合もある。
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	3	1	アセスメントシートや面談での話など、項目毎に検討し整理している。	子どもの特性についての理解や支援の方法について、具体的な取り組み目標を掲げている。それらをふまえた記録が残るように努めていく。
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	3	1	活動内容について意見交換しながらプログラムを工夫している。	情報収集も行いながらアイデアを取り入れていくように努めていく。
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	4		「できた」という達成感を持てる内容になるようにプログラムを工夫している。	子どもの参加状況を見ながら、新しいプログラムを考案していく。
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	4		集団活動の中で個別に目標を設定しながら支援をしています。	その日の子どもの様子、学校や家庭と連携しながら行なう。
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	3	1	日々の子供の様子等、保護者や先生からの情報があれば事前にスタッフと共有し、運動中の補助等を行なうようにしている。	職員間で意見交換を行ない、その日の役割分担を決めるようにしていく。 (打ち合わせ、振り返りができるようにする)

	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	3	1	日報の記入しながら職員間で一日を振り返り、情報の共有化を図っている。	送迎時の保護者からの聞き取り内容などを共有する場を設けるようにしていく。 (必要な場合は全職員で共有する)
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	3	1	活動の参加の様子、支援のねらいの評価など、意見交換しながら記録を残している。	記録をもとに引き継ぎをしながら、チームでの支援に繋げていけるようにしていく。
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	2	2	日々の送迎、更新時の面談に合わせて聞き取りや情報交換をし、見直しを行なっている。	目標達成がしやすい目標を立てるようにし、達成できた項目に関しては随時見直しを行なう。
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ合わせて支援を行っているか。	4		日常生活の充実と自立支援のための活動、体験活動(土、日プログラム)を行なうようにしている。	メンバーを見て様々な活動を行なえるよう、企画、立案を行なうようにしていく
	25	子どもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	4		子どもたちが何をしたいのかを判断するため、行動や表情を観察し、コミュニケーションが取れるように努めている。	
関係機関や保護者との連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	4		責任者が事前に職員に聞き取りをしたり、日々の記録をもとに報告している。	引き続き必要な情報の共有と意見交換をする。 (学校や相談支援員)
	27	地域の保健、医療(主治医や協力医療機関等)、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	1	3	学校でデイサービスでの様子を共有し、連携した支援を行なう体制が取れている。	引き続き連携体制を維持していく。
	28	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っているか。	4		予定表等は保護者の方から頂いており、送迎時に学校での様子などの聞き取りもしています。	特に情報共有が必要な児童は、学校側と連携を取っていくようにしていく
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	1	3	保護者との面談を通じて、就学前の情報を確認している。	必要に応じて相談支援事業所を通じて情報の共有を図っていく。
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	3	1		今後に必要なに応じて対応を検討していく。
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。		4	今のところ連携や研修の場は設けてはいない。	今後に必要なに応じて対応を検討していく。
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	1	3	地域との交流が難しいため参加する機会は設けていない。	可能な児童のみ参加するなど、臨機応変に対応していく。
	33	(自立支援)協議会等へ積極的に参加しているか。	2	2	今のところ参加していない 地域の会には定期的に参加し、情報交換を行なっている	今後に必要なに応じて参加を検討していく。
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	4		送迎時の活動の報告、LINEでのやり取りなど保護者と連絡は密に取るようにしている。	引き続き保護者との情報共有を行ない、共通理解を持つようにしていく。
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。		4	ペアレントトレーニングは行なっていない。	今後依頼があれば実施していく。
保護者への説明等	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	4		契約時、改正時に説明を行なっている。	引き続き丁寧な説明を行なうようにしていく。
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	4		日頃から保護者からの要望や意見を受け取っている。	引き続き利用にあたっての要望や意見を真摯に受け止めていく。
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	4		面談での内容が更新した計画書に記載されているか確認していただき、同意を得ている。	今後さらなる説明が必要になった際は、丁寧に支援内容を説明していく。
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	4		相談や要望に応じて、適時対応をしている。	相談などを受けた場合は丁寧な対応、支援を行なうようにしていく。
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機軸を設ける等の支援をしているか。	3	1	2月に「ここいろタッグコンサート」、保護者会を開催、参加頂いた保護者の方からは好評でした	
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	4		苦情への対応体制は取っている、苦情が届いた際は確認を早急に行ない、丁寧に対応をしている。	
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	4		Instagramや公式ラインにて、活動や行事予定などの情報を伝えている。	
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	4		最新の注意を払い徹底して取り組んでいる。	

	44	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	4		特性に応じてサインや声掛け、写真などを使いながら意思疎通を図っている。	引き続き児童に合わせて適切なツールを使用していく
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	1	3	年1回バイオリニストの方に来て頂いた時は、近隣住民に声を掛けています	
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	4		各種マニュアルを策定している。利用者に合わせて職員と子どもが参加している。	実施日を工夫するなどし、参加できる子どもや職員を増やしていく。
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	4		業務継続計画を策定し定期的に訓練を行なうようにしている。	実施後の課題を次の計画に反映させていくようにする。
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	4		その日の子ども状況を確認しながら、発作時は適切な対応ができるようにしている。	情報の収集や保護者との連携を取りながら、安全に活動に参加してもらえる環境をつくる。
	49	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	4		保護者からの指示や聞き取りにおいて、全職員で情報の共有を行なうようにしている	引き続き安全面の対策をしっかりと行なうようにしていく。
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	4		備品などの整備、AED設置場所の確認などを行なっている。	利用者の状況にあわせて計画を変更する。実際の場面で活かされるように、職員間での情報共有をしていく。
	51	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	4		計画に基づく取り組みをした後は、保護者へ報告を行なっている。	取り組みに参加できなかった子どもの保護者への報告も一緒に行なうようにする。
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	4		発生した際迅速に職員間で共有し、再発防止への対策を行なっている。	対策が次の業務の改善につながることを念頭に、今後も対応していく。
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	3	1	職員に虐待防止の研修を行なっている。子どもの特性への理解が深まるように意見交換をしている。	引き続き職員間での意見交換、研修が必要と考えている。
54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	3	1	組織的に基準を決めており、口頭で説明をするようにしている	身体拘束を行なう可能性のある利用者がある場合は、十分に説明を行なうようにする。	